資料６－３

令和 8年 8月 4日（火）
令和 8年度 東京都発達障害者支援地域協議会

令和 8年度

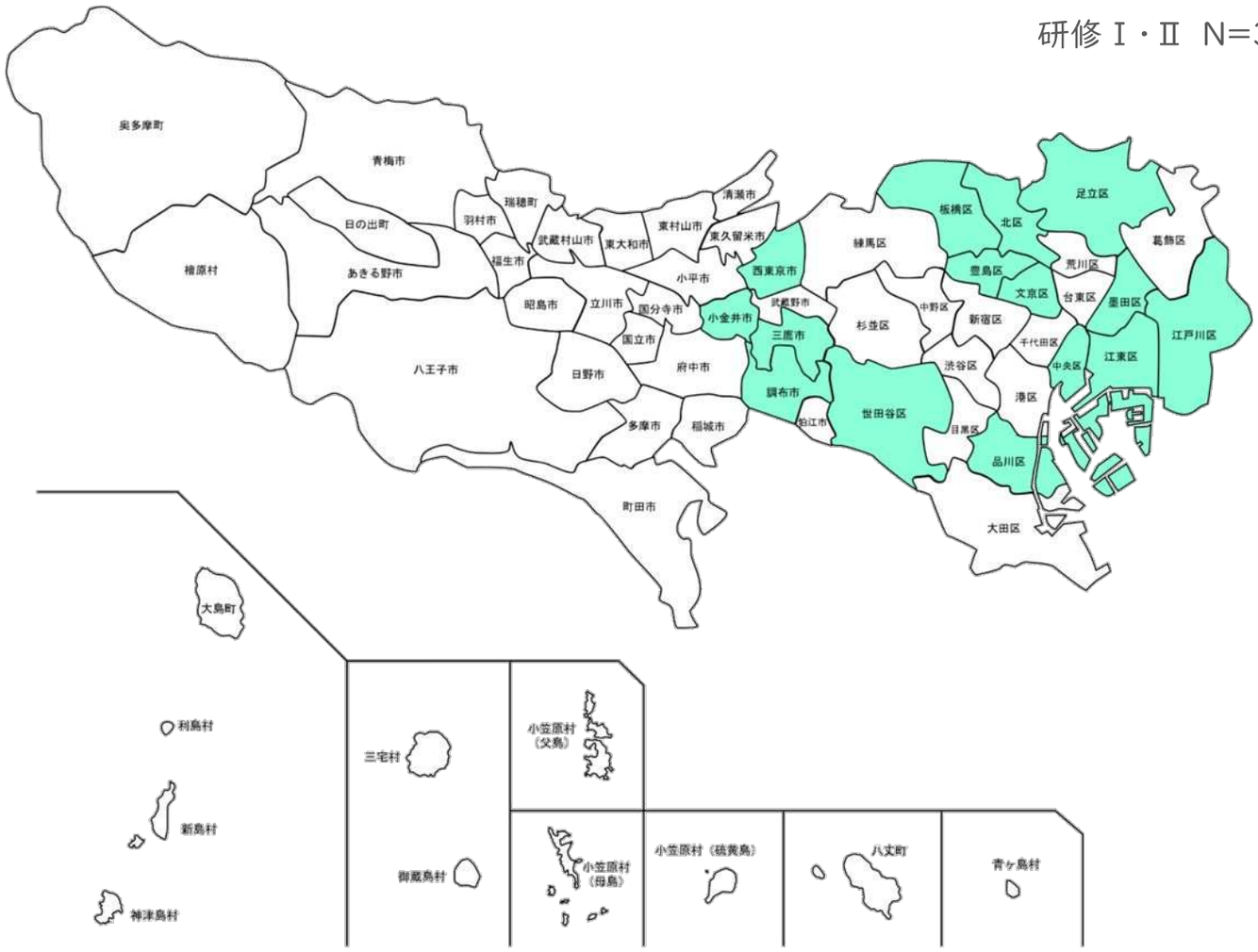
東京都発達障害者支援センター（おとなTOSCA）活動報告

③成人期発達障害者支援力向上研修



③-1.成人期発達障害者支援力向上研修※支援者の勤務地

2 【参考】Ⅰ：講演会、Ⅱ：パネルディスカッション



研修Ⅰ・Ⅱ N=31名（ハイブリッド、11区4市）※同日開催

アンケート結果※一部抜粋

・司法の話を聞く機会があまりないので話を聞くことが出来て良かった。親なき前の必要な準備なども含めて、今からできることはないか考えていくことも大切だと思いました。もう少しお話伺いたかったです。

・発達障害者支援を実施する際に、様々な背景を包含して考えていく必要を感じた。家族と切り離さずには考えられないことも現場では生じることが多々ある中で、医療的な見解は参考になることが多くありました。

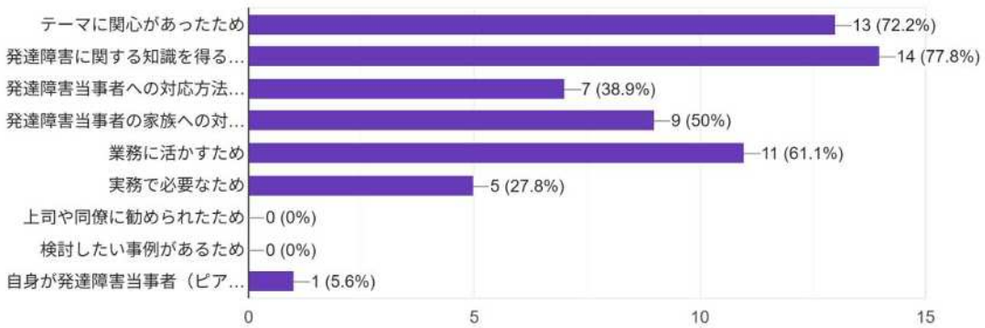
・医学的な知識を知る貴重なお話でした。軽度発達障がいと境界知能の違いを質問すればよかったな。と、後から思いました。日頃の仕事では知的障がいの方々と接していますが、発達障害も併せ持つ方もいます。本人が家族と良い関係性があると落ち着いているように感じます。私達支援員も、家族の方とお話しをできるだけ出来るようにしたいと思いました。

③-1.アンケート結果

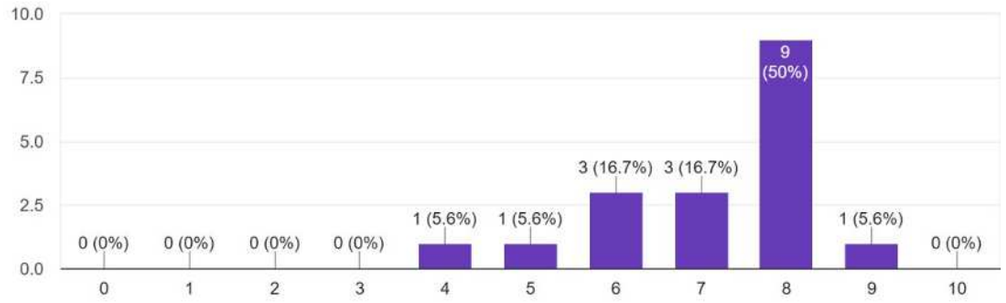
3 アンケート結果より抜粋

研修Ⅰ・Ⅱ 講演会・パネルディスカッション

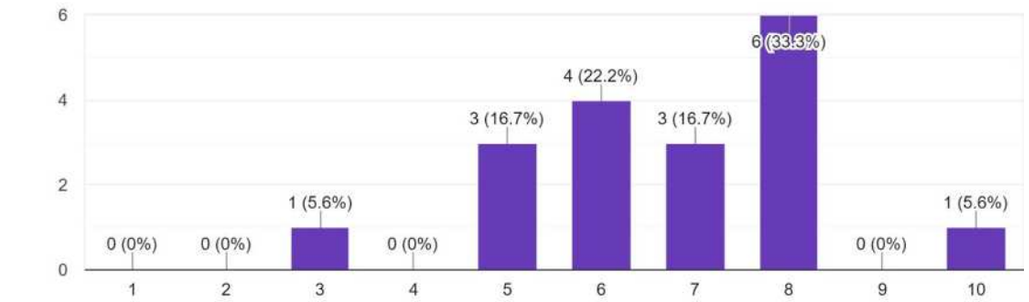
Q３．研修にお申込みいただいた理由を教えてください（複数選択可）。
18 件の回答



Q４．研修Ⅰ基調講演① 「患者と家族の支援方法」を１０点満点で採点すると何点でしたか？
18 件の回答



Q７．パネルディスカッションを１０点満点で採点すると何点でしたか？
18 件の回答



その他、記述式回答で得た内容について、次ページに記載。
※一部抜粋

Q.本研修に参加して、何を得ることができましたか？（自由記述）
Q.発達障害やその特性によって対応が難しかったケース について、差し支えなければ概要を教えてください（ 自由記述）。
Q.今後、「発達障害」に関する研修で受講したい研修のテーマや内容を教えてください（自由記述）。

③-2.中間総括

4 中間総括（アンケート回答を受けて）

今年度研修の実施結果及び考察

- 今年度は、「家族とのつながり方や支援を考える～支援者が直面する課題や対応の工夫～」をテーマに、本人支援と家族支援を一体的に捉えることを目的として実施した。
  アンケートでは、発達障害の特性理解に加え、家族関係、医療的な見立て、就労、相続・信託、親亡き後の生活等、本人を取り巻く幅広い背景を含めて支援を考える必要性への気づきが挙げられた。また、家族を支援の担い手として捉えるのではなく、家族自身も負担や葛藤を抱える支援対象として捉える必要性が共有された。

- 対応が難しかった事例には、知的障害や境界知能、精神疾患、身体障害、家族関係、就労上の課題等が複合しているケースが多く見られた。これらは、本人の理解力や判断力の不足としてのみ捉えるのではなく、情報の伝え方、意思決定支援、利用可能な制度・地域資源、関係機関の連携状況等、支援する側の方法や環境との相互作用を含めて検討する必要がある。
  また、支援者が設定する目標や働きかけが、本人の希望や選択肢と合致しているかを継続的に確認する視点も求められる。

- 今後受講したい研修としては、境界知能や知的障害と発達障害を併せ持つ人への支援、医療的な見立てとアセスメント、本人との具体的な関わり方、支援機関へのつなぎ方、親亡き後における各専門職の役割等が挙げられた。今後も、本人、家族、生活環境、制度を含む包括的な視点を持ち、意思決定支援、家族支援、多機関連携を具体的な事例から検討する研修が求められる。